

# にょうろこうじ

平成28年  
第61号  
2月20日発行

発行者



医療法人社団  
小島医院

高岡市東中川町6-10  
TEL 26-1020  
FAX 26-0573

<http://www.kojimaiin.com>

## 平成二十八年へ

小島 明

年初めは、快晴の日が多かった。温暖化の影響と思われる。暖かくて誠に結構であるが、自然界のバランスが崩れていないかと気になる。日本の季節の感覚は明瞭で、春は暖かく、夏は暑く、秋は涼しく、冬は寒いのが当然だった。富山湾では鰯が獲れていない。海水温が上昇して、獲れるべき魚が挙がっていないという。一月十八日から急に寒くなり、十九日から雪が降りはじめた。今日（一月二十五日）は積雪七十センチ以上となり、医院の除雪が大変だった。天候が本来の状態に戻って、地球のためには望ましいことだと思ふ。人類にとっては、気候の急な変化は生活に影響をあたえる。天気予報は雪が降ったと大騒ぎしているが、冬は雪が降るのは当然のことだ。日本人は四季に備えて準備

をするのも当然だ。

地球の気温が毎年少しずつ上昇している。暖かくなって喜んでいいる場合ではない。人類以外の生態系にも当然影響を与えている。気温が上がれば、水蒸気が発生し、雲が生じ、太陽光が地上に十分届かず、地球は冷えて、墜には、氷河期が来るのではないかと恐れる。地球は人類だけのものではない。地球の環境に最も影響を与えているのは人類であり、地球の環境を守るの、人類の役割と思ふ。



H28. 1.25 撮影

## 御旅屋

篠島 満

御旅屋とは、江戸時代の寛永十二年（一六三五）に江戸表への参勤交代が義務つけられたことで殿様の江戸への御旅館が建てられたことに由来する。



安政年間（一八五四〜五九）に書かれた津島北溪の『高岡詩話』にも富田敬周の『三州誌』を踏まえて次のように記している。

瑞龍公が太閤秀吉より伏見の豊臣秀次の遺館の良材を賜って、それでお城の殿閣を造った。その後、元和元年（一六一五）の大阪の夏

の陣の後、城の殿閣を取り壊し、その古材でもって亭館を町の東の高台に造った。所謂、御旅屋がそれである。

寛永四年（一六六四）の五月に、亭館が老朽化したので取り壊し、再びこれを造る。それが享保十三年（一七二八）三月に亭館を取り壊すことになった。そして遺材で「夏月曝書亭」を造る。それも寛延二年（一七四六）六月に、遂に取り壊したという。但し「三壺聞書」によれば、豊臣秀次の遺館の良材は江戸屋敷の造宮に使われたとある。

服部菊溪玄白が享保十二年（一七二七）に高岡の八勝の景を「高岡の春」と題して八百の詩を興している。それに御旅屋を「青雲館」と呼んでいる。この詩は、「曝書亭」が未だ壊される以前の作である。今は武器倉が三棟が建っているが、樹木が繁茂して古木に藤の木が絡み、晩春、初夏の頃には紫の花で覆われ、一面に満ちあふれている。このため文人墨客が、いつも遊び楽しむところだという。「青雲館」の詩にいう。

百里青雲飛館流  
春風朝駐我華驩

### 金衣公子花間曲 幸奏綺筵何不留

遠く大空に広がる青い雲が飛ぶように館の上を流れていく。春風が朝から心地よく庭の花を求めて漂っている。鶯が花に向かって淑やかに曲を奏でる。幸せな美しい居心地を奏でて後、跡に何も留めずに飛び去っていった。

当時の御旅屋は、表に御旅屋門があり、裏には小門をおき、後ろの庭が桜馬場に向かって続き、内外には濠池が設けられていた。



藩主の利常公時代から五代の綱紀時代まで使われていた。この御旅屋が壊されると、町方の大家が御宿に当てられ、御馬出町の服部家、屋号「天野屋」が、正徳以来、藩主のお泊りになる御本陣。現在の高岡郵便局の向かいのところである。

二十七年十月二十日

### 香気が高く極上品の

### 「庄川のゆず」

上野 亮平

富山県は日本の中心に位置し、南北からの暖流と寒流の接点であり、植物の北限、南限地である。

「ゆずの里」で知られる砺波市庄川地域はゆずの北限地である。

「金屋ゆず」の名で親しまれる庄川ゆずの原種は弘法大師が広めたという伝説がある。

表皮が粗く凹凸が目立ち、外見はあまり美しくない。ところがゆず特有の香気が高く、果皮が厚く、酸味が強い特上品と人気が高い。

元々は屋敷林として栽培していた。昭和四十五年、米の生産調整に伴い、周辺農家が苗木千本のゆず畑を作り、本格的生産を開始した。

ゆずは一年ごとに豊作と不作を繰り返す習性があるが、平均して十トン程度を収穫していた。数年前から三〜五トンに落ち込んだが、関係者の努力と天候に恵まれ、去年、今年と二年続きの豊作。十一

月十四日・十五日、庄川水記念公園で開催された「庄川ゆず祭り」には県内外からのお客様で賑わい、需要には十分応えられたと、主催者一同ほっと安どしている。



「金屋ゆず」がここまで来たのも、一昨年九十三歳で他果された「岩田治郎さん」がゆず栽培に捧げられた努力を忘れてはならない。先祖伝来の甲を委託し、ゆずの改良や生産に心血を注がれ、「富山県の特産の匠」に認定された。現在は、岩田さんの遺志を継いで、金屋ゆず生産組合(組合長 真田猛(六十五))では、安定した生産へと接ぎ木法による若木を増やして「ゆず王国」の堅持に取り組んで

いる。  
冬場では、この逸品が食卓で活躍をする。

#### 料理方法は

①簡単なものは「ゆずのさしみ、ゆずドリンク、ゆずの味噌あえ」

②定番は「ゆず味噌、ゆずマーマレード」伝統のものは「ゆずの味噌漬け」である。

各家庭では、皮を茶碗蒸し、ゆず味噌を風呂吹き大根に、自家製ポン酢を鍋物などにして、それぞれ美味佳肴に工夫を重ねている。

特産品の少ない地で、ゆずが起爆剤となり、地区の活性化更には地域創生の一役を担うことを期待している。

皆さんも是非「庄川ゆず」を、召し上がって下さい。



# 新年会 開催

平成二十八年一月十六日・十七日、「磯はなび」にて、新年会を行いました。

今回は一泊二日ということで、朝まで飲むぞー!! と意気込んでいる方の中には、いたのではないのでしょうか? 小島先生は、早く温泉につかり、マッサージをしてもらいたいと、当日の午前中からソワソワしていたとか。



宴会では、食事をしながら歓談し、他の部署間での交流も深めることができました。ビンゴゲームもあり、豪華景品を狙って早くビンゴにならないか、ワクワクしながらゲームを楽しみました。その他、幹事さんの提案で、新年を迎え、今年が一番「福」を持つ

た人なのか決めようという事で、じゃんけん大会をしました。

最後まで勝ち進んだのは、透析スタッフのIさん。小島医院一「福」があるという事で、幹事さんからデザートを一つプレゼント!!



運が良いのか、悪いのか、Iさんはダイエット中・・・。どうするのかなど思いながらも、ペロリと完食する姿を数名のスタッフが見届けていました(笑)

一方、最後まで負け続けた受付スタッフのHさん。一発芸をお願いいされ、「え〜! 何すればいいが〜!」と言いなながらも、スタスタと中央まで出て来るのが早かった。悩んだ末に披露してくれたのは、オリンピックに出場できるのでは!?! と思うくらいの見事な側転と前転! 会場は笑いの渦と拍手に包まれました。

「磯はなび」での新年会、美味しい食事に、美味しいお酒、盛り上がった宴会、ゆっくりと温泉につき、日頃の疲れを癒す事ができました。

## 第二十七回 小島医院 院内研究会

平成二十八年一月十六日(土)

小島医院院内研究会を開催いたしました。

今回の話題は

### ①防災訓練II通報訓練

透析からの離脱訓練など各スタッフの真剣に取り組む姿が印象的でした。

### ②高齢者の不眠について

外来看護師 浜谷 月江

不眠に悩む方は大勢いらっしゃると思います。慢性的な睡眠不足は心身にさまざまな影響を及ぼすため、早めの対処や治療が大切との発表でした。

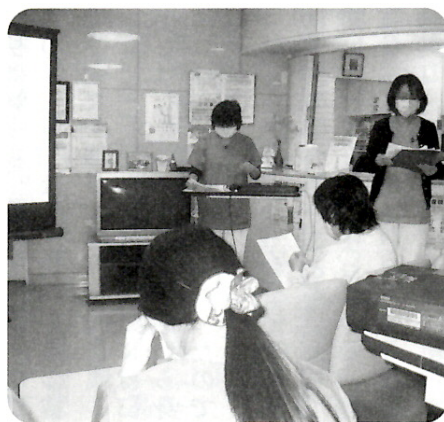
簡単にできる対処方法は

- (1)日光を浴びる
- (2)就寝前の入浴があります。自分に適した安眠方法が見つかると思います。

### ③第十八回

#### 日本腎不全学会参加報告

透析室看護師 廣上こずえ  
腎不全看護における知・心・技の伝承と創造がテーマの発表でした。透析医療は日々進化しています。薬は合併症の予防には欠かせない出来ません。



しかし日本薬剤師会の調査では年間五〇〇億と言われる薬の飲み忘れがあります。薬を正しく・無駄なく飲んでもらう為に、今後この課題を目標に掲げ、より良い透析生活を援助していきたいと思っております。

当院では、年二回の院内研究会を開催しスタッフのスキルアップを目指しています。

司会 透析室看護師 安樂 照美

# インフルエンザの特徴と予防！

通常の季節性インフルエンザは、北半球では毎年冬季に流行します。日本では例年12～1月に集団発生が始まりますが、2015年は大幅に早い9月からインフルエンザによる学級閉鎖が報告されていて、流行期が長くなるとも言われています。

	インフルエンザの場合	かぜ(普通感冒)の場合
主 な 症 状	発熱、筋痛、関節痛	鼻 汁 、 鼻 閉
悪 寒	高 度	軽度、きわめて短期
熱、および熱型(期間)	38～40℃ (3～4日間)	ないか、もしくは微熱
全身痛、筋肉痛、関節痛	高 度	ほとんどのない

インフルエンザの潜伏期間は1～2日で、発症する1日前から発症後5～7日頃まで周囲の人にうつしてしまう可能性があります。特に発症日から3日間ほどが最も感染力が高いと考えられています。さらに、熱が下がってもインフルエンザの感染力は残っていて、他の人に感染させる可能性があります。(個人差はありますが、熱が下がって2日間は感染させる可能性があります。)

## ☆ 予防方法 ☆

- ①マスクの着用・・・インフルエンザは咳、くしゃみ、せき、つばなどのしぶきと共に放出されたウイルスを、鼻腔から吸入することによって感染します。インフルエンザを拡散させないためにも、患者・周囲の人が共にマスクをすることが効果的です。
- ②手洗い・・・飛び散ったインフルエンザウイルスが付着したものを手で触ると、鼻や口、目、肌などを介してインフルエンザに感染することがあります。手洗いが感染を防ぐうえで有効なのはそのためです。
- ③加湿・・・空気が乾燥すると、喉の粘膜の防御機能が低くなるため、インフルエンザにかかりやすくなります。乾燥しやすい冬場の室内では、加湿器などを使って50～60%の湿度に保つことも効果的です。



## 編集後記

あけまして

おめでとうございます

申年ということで、旅行先の日光東照宮で撮った「三猿」を載せました。

有名な「見ざる 言わざる 聞かざる」ですね。

しかし、このことわざ、意味は解りますか？

私は解らず、調べてみました。この「三猿」はまだ幼い子供の猿とされています。

「三猿」は、余計なことには口出しはしないよう、幼少期から身につけさせたい処世術だったのでしようか。

本来の意味は、「子どものときは、世の中の悪いことを見たり、聞いたり、言ったりしないで、素直なまま育ちなさい」という教育論的なものだそうです。

現在子育て中の私。「素直なまま育っていく」

簡単な様でいて、ことわざになるくらい難しいのでしようね。

みなさん、自

分の幼少期はどうでしたか？

